

崇校だより

横浜市立十日市場小学校

令和4年11月30日(水)

緑区十日市場町1392番地-1

電話：981-0420

FAX：983-1694

横浜市情報ネットワーク（YYネット）上に本校のホームページがあります。

URL：<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tookaichiba/>

ふわふわ言葉とちくちく言葉 ～ 他者視点の大切さ ～

校長 平田 あや

街路樹の木々も葉を落とし、ゆく秋の気配に寂しさを感じる季節になりました。気が付けば早いもので、もう12月を迎えようとしています。

さて、12月と言えば「人権」という言葉を思い浮かべる方も多いことと思います。国際連合が「世界人権宣言」を採択した日である12月10日は、「世界人権デー」とされています。

本校では「私も大事 あなたも大事」という人権キーワードを掲げ「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」の取組を行い、誰もが安心して学校生活を送ることができるようにすることを目指しています。しかし、子どもたちの様子を見てみると、「ちくちく言葉」が飛び出す場面をしばしば見かけます。自分の気持ちをうまく伝えられないとき、援助要請をうまくできず困ったときなど…。一番多いのは、友達とトラブルになり相手の非を責めてしまうときでしょうか。

先日の朝会で、私は子どもたちに「ハリネズミのジレンマ」という話を紹介しました。これは、ドイツのショーペンハウアーが書いた短い寓話です。

とても寒い冬の夜。凍えそうな2匹のハリネズミは、近づき体を寄せ合って、互いの温もりで体を温めようとしました。しかし近づきすぎると、互いに体の針が相手の体に刺さって傷つけ合ってしまう。でも、離れると夜の寒さには耐えられない。ハリネズミたちは何度も、くっついたり離れたりを繰り返しながら、そこまで痛くもなく相手の温もりを感じられるような適度な距離を見つけ、夜の寒さをしのぐことができました。

実は、人間も、適切な距離でないと互いの関係がうまくいかないことがあります。人間関係のよりよい距離を見つけるためには、「針の長さはそれぞれに違う」ことを知る必要があります。この「針の長さの違い」が、人間の場合「感じ方の違い」です。同じものを見ても、同じ音を聞いても、人によって感じ方は全く異なる。「他者視点」をもつことの大切さを伝え、講話を締めくくりました。

では、どうやって、「他者視点」を育てていけばよいのか。学校でトラブルが起こったとき、教師は子どもたちに、状況を整理する支援を行い、相手側からどう見えるのかを考えさせます。そうすると、子どもたちは「あっ、そうだったんだ。」と、相手の感じ方や思いを理解し、自分の行動の間違いに気づくことができます。「次に同じようなことがあったとき、どうしたらよいか」を考えさせることも大切です。子どもたちは「まず深呼吸してみる」「相手に“なんで？”って聞く」など、自分なりの方法を導き出します。そして、次の場面でそれを実践できたとき、大いに褒めるようにしています。

ハリネズミたちのように、何度も何度も失敗を繰り返しながら、子どもたちは「他者視点」を学び、相手を思いやった「ふわふわ言葉」を少しずつ上手に使えるようになっていきます。

後1か月で今年も終わりを迎えます。今月もご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。